

# 加藤唐九郎・重高・高宏 — 窯ぐれ三代展 —

## — 窯ぐれ —

今では過去のものになってしまったが、  
少し前までは、尾張、美濃では、  
製陶業に携わる者はみな「かまぐれ」と呼んでいた。

加藤唐九郎著『かまぐれ往来』新潮社、1984年

## 開催概要

加藤唐九郎の生誕110年を記念して、さまざまな逸話や伝説に包まれ、波乱に満ちた一生から野の陶人と呼ばれる唐九郎、その唐九郎の三男・重高、孫・高宏の三人による「加藤唐九郎・重高・高宏一窯ぐれ三代展」を開催します。

加藤唐九郎は、近・現代陶芸界の鬼才であり、ひたすらに桃山陶に挑戦を続けました。その波乱に満ちた「窯ぐれ」人生から生み出された作品群は、黄瀬戸・瀬戸黒・志野・織部・唐津・信楽・伊賀・高麗など実に多彩で、とくに茶碗をはじめとする茶陶においては他の追随を許さない独自の作風を確立しました。

加藤重高は、唐九郎の側にあつて作陶はもちろんのこと、その他の面でも唐九郎を支え、自身も陶芸家として作陶に打ち込み、叩きの技法を用いた迫力ある量感を持つ花器や水指などを生み出し高い評価を受けました。そして円熟を迎えた昨今は、多彩な表情を見せる志野を中心とした茶碗・花生などの茶陶の世界に、独特の個性を映し出しています。

加藤高宏は、祖父や父の原点である桃山陶を学ぶとともに、祖父の作風をも研究しながら独自の作風を確立しつつあります。なかでも志野・瀬戸黒などには、独自の創意を加え、造形・釉調ともに強い息吹が感じられます。

本展では、加藤唐九郎の初期から絶作にいたるまでの多彩な作品群から厳選された代表作により陶芸界に残した大きな足跡を見つめると同時に、その血を受け継ぐ重高氏、高宏氏の新作をあわせた約110点を一堂に会し、三人の共通性、独自性を展覧しようとするものです。



加藤唐九郎 志野茶盃 銘 貫道 1969年

## 開催要項

- 展覧会名 「加藤唐九郎・重高・高宏 一窯ぐれ三代展―」
- 会場 菊池寛実記念 智美術館 東京都港区虎ノ門 4-1-35 ☎03-5733-5131
- 会期 2008年12月6日(土)～2009年3月8日(日)  
 ※期間中、展示替えを行います  
 休館日:毎週月曜日(ただし2009年1月12日は開館)、2008/12/24(水)  
 ～2009/1/1(木)、1月13日(火)
- 主催 財団法人菊池美術財団、東京新聞
- 協賛 京葉ガス株式会社、NEC
- 協力 財団法人翠松園陶芸記念館
- 観覧料 一般 1,300円 大学生 800円 小中高生 500円  
 (※障害者手帳をご提示の方、およびその介護者1名は無料となります。)
- 展示作品 約110点および関連資料
- 監修 林屋晴三(菊池寛実記念 智美術館館長)
- 構成 唐澤昌宏(東京国立近代美術館工芸課主任研究員)

## 略年譜

### ●加藤唐九郎 (1898～1985)

明治31(1898)年、愛知県東春日井郡水野村(現・瀬戸市水野町)に生まれる。生家は、半農半陶の窯屋だった。昭和18(1943)年、愛知県西加茂郡に窯を構える。志野茶碗や唐津釉の雑器及び瀬戸黒茶碗を主として制作。桃山時代の陶芸の研究に励む。昭和24(1949)年、翠松園(名古屋市守山区)に戻る。以降、昭和60(1985)年に世を去るまで、志野や黄瀬戸、黒織部茶碗の優れた作品を作り続けた。昭和31(1956)年、中日文化賞受賞。主な著書に、「やきもの随筆」「原色陶磁大辞典」「陶器全集」「自伝 土と炎の迷路」がある。

### ●加藤重高 (1927～)

昭和2(1927)年、愛知県瀬戸市に加藤唐九郎の三男として生まれる。瀬戸窯業高校在学中より 父・唐九郎のもとで作陶生活に入る。昭和34(1959)年より昭和46(1971)年まで日展に出品。その間に、特選・北斗賞を受賞。昭和37(1962)年より、現代工芸展出品、現代工芸賞受賞。昭和42(1967)年、日本陶磁協会賞を受賞。昭和46(1971)年より、作品発表の場を個展とし、以後全国で個展を開催。主な著書に「加藤重高作品集」「遺された言葉」「かまぐれ二代」「土よ炎よ」がある。

### ●加藤高宏 (1972～)

昭和47(1972)年、愛知県名古屋市に生まれる。父は加藤重高氏。祖父は故加藤唐九郎。平成2(1990)年名古屋芸術大学洋画科入学。平成6(1994)年、中国の西安・敦煌を経てウルムチより東欧・西欧諸国を陸路でまわり、スペインに約一年間滞在し語学・美術を学ぶ。帰国後、重高工房にて作陶。平成9(1997)年から発表活動、平成11(1999)年初個展開催。

## 展 示 内 容



① 加藤唐九郎

志野茶盃 銘 貫道（かんどう）1969年  
高台脇に「一ム」の刻銘があるが、内面から見込みにかけて、鉄絵でも「一ム」と書かれているように見える。「一ム」は唐九郎の銘であり、漢学者で詩人の服部担風翁より贈られた「一無斎」の号に由来する。



②加藤唐九郎

鼠志野茶盃 銘 鬼ヶ島 1969年  
「上がった時から、志野焼茶碗に対する、何か暗示のようなものを得て、以来、その技の継承と発展に確信を得た」（『唐九郎志野茶碗』求龍堂、1974年）と述べた、唐九郎志野を代表する作品。

### その他主な、加藤唐九郎作品

- 《志野茶盃 銘 氷柱》1930年
- 《古瀬戸釉柳文壺》1934年
- 《織部向付》1940年
- 《志野茶盃 銘 唐獅子》1973年
- 《黄瀬戸輪花鉢》1982年（駒形十吉記念美術館蔵）、等



③加藤重高 鼠志野茶碗 2008年



④加藤高宏 黒織部茶盃 2008年

※会期中、作品の展示替えがございます

## 関連行事のご案内

展覧会会期中、下記の講演会を開催いたします。

講演、対談はいずれも 14 時より地下展示室にて開催。観覧料でご聴講いただけます。

---

2008 年 12 月 20 日（土）

■講演「桃山陶の魅力—黄瀬戸、志野、織部—」

講師：林屋晴三（当館館長）

2009 年 1 月 17 日（土）

■講演「加藤唐九郎・重高・高宏—『かまぐれ』三代の作陶について」(仮)

講師：唐澤昌宏（東京国立近代美術館工芸課主任研究員）

2009 年 1 月 31 日（土）

■対談「加藤重高が語る—父について、陶芸について」(仮)

加藤重高 × 聞き手：林屋晴三

2009 年 2 月 21 日（土）

■対談「祖父や父から受け継ぐもの、そして未来」(仮)

加藤高宏 × 聞き手：花里麻理（当館学芸員）

---

■学芸員によるギャラリートーク 2008. 1. 24(土)/2009. 2. 14(土)

---

■西洋館見学会（予約制・定員 20 名様） 2009. 2. 28（土）、14 時より

当館敷地内の西洋館（登録有形文化財）は、大正時代に建てられた後、保存修復を重ねながらも建具等の室内装飾が丁寧に保全され今日まで使用されている稀有な建物です。通常非公開の内部を展覧会期間中に特別公開いたします。

○西洋館のご案内（建築家 篠田義男氏）、美術館観覧料（学芸員の解説付き）、レストランでのお茶・ケーキのサービスを含めお一人様 8,000 円です。

---

## 掲載に関するご案内

「加藤唐九郎・重高・高宏 一窯ぐれ三代展一」展をご紹介いただく場合、下記事項をご確認の上、別紙「掲載・写真貸出依頼書」に必要事項を記入の上、FAXにてご連絡ください。

### ●展覧会をご紹介いただく場合

本展をご紹介いただく場合、記事・番組内容について、情報確認のためゲラ刷りの原稿の段階で下記問合せ先までFAXにてお送りください。

また、掲載紙・誌、もしくは録画テープをお送りくださいますようお願いいたします。

### ●写真掲載について

写真付きでご紹介いただける場合は、別紙「写真貸出一覧」をご確認の上、FAX用紙に必要事項をご記入の上、お送りください。**※写真を使用する場合は以下の点にご留意ください。**

- 1、作品は全図で使用してください。部分使用や作品に文字や他のイメージを重ねることはできません。
- 2、使用する写真それぞれに、キャプションの明記をお願いします。
- 3、写真の使用は本展を紹介する場合に限らせていただきます。展覧会終了後の放送・掲載は原則としてお断りいたします。

以上の点にご留意いただけない場合、著作権者との間にトラブルが生じることがあります。その場合、主催者側では一切責任を負いかねますのでご注意ください。

### ●展覧会についての取材・撮影について

本展の取材・撮影をご希望の場合は、事前に下記・美術館担当までご連絡ください。ご連絡のない取材・撮影はお断りすることがあります。

お問い合わせ先：

菊池寛実記念 智美術館（担当：高田／島崎）

〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-35

財団法人 菊池美術財団

TEL. 03 (5733) 5131

FAX. 03 (5733) 5132

# 掲載・画像貸出申込書

返信先 FAX: 03-5733-5132

## ●貴社基本情報

会社名:	
担当部署:	担当者名:
住所:	
電話:	ファックス:
E-MAIL:	

## ●媒体情報

新聞 雑誌	媒体名:	
	発行日:	発売日:
TV ラジオ	媒体名:	
	放送日:	放送時間:
ネット	URL:	

## ●画像貸出リスト

希望の作品に☑	作品名	制作年
<input type="checkbox"/>	「①加藤唐九郎 志野茶盃 銘 貫道」	1969 年
<input type="checkbox"/>	「③加藤重高 鼠志野茶碗」	2008 年
<input type="checkbox"/>	「④加藤高宏 黒織部茶盃」	2008 年